

## 九州地区本部拡大執行委員会を開催



4月18日、北九州市内において、拡大執行委員会を開催しました。

会を代表して財前委員長は、「熊本地震から10年が経過した。改めて防災意識を高めてもらいたい。2026春闘は厳しい結果に終わったが、各旅客会社は大幅な賃金改善をしており、離職がさらに進まないか危惧している。2025年度の決算はまだ発表されていないが厳しい結果になるだろう。2026年度の事業計画が発信されたが、利益は抑えた数値になっており、厳しい経営状況からなかなか抜け出せない状態である。そのような中で今年度末にはアボルール改定が控えており、JR連合として各旅客会社と調整を図っている

が、前に進んでいないのが現状である。アンテナを高くして、進捗状況を確認していく。昨年末から鉄道人身傷害事故が連続して発生しており、信頼信用を大きく損なっている。入換作業において誘導合図のやり方が変更されたが、安全最優先の業務をお願いしたい。また、新規採用者が研修を終えて現場配属となる。労働災害のリスクが高まることもあり、ケアをお願いしたい。最後に組織課題である。ここにいる皆が高い意識を持ち、結果は必ずついてくることを信じて行動してもらいたい」と力強く訴えました。



来賓には、九州地協よりJR九州バス労働組合角当委員長、辻村中央執行委員長、貨物鉄産労退職者連絡会田代会長にお越しいただき、角当委員長は、「日頃より大変お世話になっており、改めて感謝申し上げます。同じ公共交通機関で働く者にとって一番重要なのは安全であり、これからも安全最優先の取り組みを続けていただきたい。組織関係では、出来る限りの支援をし、組織拡大に向けて尽力してほしい」と述べられ、辻村執行委員長は、会社の状況を含めながらそれぞれの課題について提起しました。



質疑では、安全問題・入換作業誘導合図の変更・2026事業計画営業費用増加・労働災害・組織対策・アボルール改定・私傷病、共済関係等々の意見が出され、執行部が答弁を行い、今後の具体的な取り組みを確認し会を終えました。

終了後、場所を変えて懇親会を開催し、さらなる親睦を図りました。